

1—1 国文学

研究・教育活動の概要と特色

国文学専攻分野では、文学を芸術の一種と捉えて、日本文学の様式・特質・展開を明らかにするとともに、その意義を世界文芸との関連において探究することを伝統的学風としてきた。同時に、作品の表現を丁寧に読み解くことを一貫して重んじ、偏りのない知識と読解力の習得を促しながら、学生ひとりひとりの関心を尊重して自己実現の手助けをするという教育方針の下、活発な研究・教育活動を進めてきている。卒業生は、約 1000 人に及び、国内外の学界・教育界・ジャーナリズム・出版界など、多方面で活躍している。現在も多くの大学院生・学部生・研究生が在籍する中、教員・学生を会員とする東北大学国文学会が組織され、毎年秋に研究発表大会を開催し、年度末には機関誌『日本文芸論叢』を発行するなど、旺盛な活動を継続している。また、本研究室には、国文学・国語学・日本思想史学の三つの専門分野の会員から成る学際的学会である日本文芸研究会の事務局が置かれ、活動の要としての役割を果たすとともに、この下部組織である上代・平安・中世・近世・近代の各小研究会は、本研究室の多くの学生が主体的に参加し運営しており、機関誌『文芸研究』（年 2 回発行）にも、本研究室の教員・学生が次々と論文を掲載している。さらに、本研究室には、助手・大学院生による自主的な研究団体として東北大学文芸談話会が組織され、毎年数回の研究発表会を開き、年刊の機関誌『日本文芸論稿』も発行している。

I 組織

1 教員数（2013 年 9 月末現在）

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：佐藤伸宏、佐倉由泰

准教授：横溝 博

助教：

2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
45	1	7	8	1

3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	12	6	4
10	16	6	6
11	16	3	0
12	15	5	0
13	0	1	0
計	59	21	10

* 2013年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

1 博士学位授与

1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	1	4	5
10	6	2	8
11	1	1	2
12	0	0	0
13	0	1	1
計	8	8	16

* 2013年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

星山健、2009年度、『王朝物語史論—引用の『源氏物語』—』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐藤弘夫、准教授・佐倉由泰、後藤幸良、2009年度、『平安朝物語の形成』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐藤弘夫、准教授・佐倉由泰、伊狩弘、2009年度、『島崎藤村小説研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐藤弘夫、准教授・佐倉由泰、佐倉由泰、2009年度、『軍記物語の機構』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐藤弘夫、教授・佐竹保子、王嘉臨、2009年度、『志賀直哉の研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐藤弘夫、准教授・佐倉由泰、三浦一朗、2010年度、『『雨月物語』論』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

野口哲也、2010年度、『泉鏡花研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

韓吉子、2010年度、『樋口一葉研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

寺澤浩樹、2010年度、『武者小路実篤の研究—美と宗教の様式—』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

鈴木早苗、2010年度、『『源氏物語』の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

高橋由貴、2010年度、『大江健三郎研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

高橋宏宣、2010年度、『太宰治研究』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫、准教授・横溝博

渡辺仁史、2010年度、『平安文芸史の記述に関する研究』

審査委員：教授・佐倉由泰(主査)、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、

准教授・横溝博

久保堅一、2011年度、『『源氏物語』の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰（主査）、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

中村三春、2011年度、『言葉の意志 有島武郎と芸術史的展開』

審査委員：教授・佐藤伸宏(主査)、教授・佐倉由泰、教授・佐藤弘夫
李英敬、2013年度、『中世紀行文芸の研究』

審査委員：教授・佐倉由泰（主査）、教授・佐藤伸宏、教授・佐藤弘夫、
准教授・横溝博

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	4	8	2	0	14
10	5	12	2	0	19
11	5	5	2	0	12
12	1	5	0	0	6
13	1	0	0	0	1
計	16	30	6	0	52

* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	5	10	0	15
10	0	4	6	1	11
11	0	8	12	0	20
12	0	5	2	0	7
13	0	6	0	0	6
計	0	28	30	1	59

* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 久保堅一「執着する薫—「わがもの」「おのがもの」に着目して—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月．
- 久保堅一「『今とりかへばや』宰相中将論—薫の執着の継承—」，東京大学国語国文学会『国語と国文学』第88巻4号，2011年4月．
- 久保堅一「「ありがたの世」を嘆く男たち—『源氏物語』蜻蛉巻の薫の位相」，日本文芸研究会『文芸研究』第173号，2012年3月．
- 鈴木早苗「『源氏物語』明石の姫君立后と『史記』「呂不韋列伝」」，日本文芸研究会『文芸研究』第167集，2009年3月．
- 鈴木早苗「「末摘花」と「紅の涙」—末摘花巻における装束の贈答をめぐる—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第33号，2009年10月．
- 鈴木早苗「「枯れゆく」宇治の大君—『源氏物語』総角巻の求婚拒否と『白氏文集』「婦人苦」—」，全国国語国文学会『文学・語学』第196号，2010年3月．
- 鈴木早苗「『源氏物語』朝顔巻の藤壺—『竹取物語』のかぐや姫を視座として—」，中古文学会『中古文学』第85号，2010年6月．
- 高橋由貴「遺された言葉」，岡部健・竹之内裕文編『どう生き どう死ぬか—現場から考える死生学』，弓箴書院，2009年5月．
- 高橋由貴「テレビの前の「政治少年」—大江健三郎「セヴンティーン」「政治少年死す」論—」，昭和文学会『昭和文学研究』第60集，2010年3月．
- 高橋由貴「大江健三郎のアルバイト小説—習作「火山」から「運搬」へ—」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第19号，2010年3月．
- 高橋由貴「火葬される「書記」の死—大江健三郎「飼育」における戦争—」，『国文学 解釈と鑑賞』第75巻9号，2010年8月．
- 高橋由貴「哀傷の言葉—宮澤賢治「無声慟哭」における喪失の語り方について」，東北大学臨床死生学研究会『東北大学臨床死生学研究会研究報告』，2010年10月．
- 高橋由貴「記憶の選択、記憶の構築—映画「ワンダフルライフ」を考える」，東北大学臨床死生学研究会『東北大学臨床死生学研究会研究報告』，2010年10月．
- 高橋由貴「「不意の唾」における「通訳」の言葉—大江健三郎と遅れてき

- た戦争（上）」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月。
- 高橋由貴「「人間の羊」における沈黙を囲む饒舌—大江健三郎と遅れてきた戦争（下）」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第20号，2011年3月。
- 高橋由貴「大江健三郎における深瀬基寛訳『オーデン詩集』の受容—「政治と性」の淵源としてのオーデン—」，日本比較文学会『比較文学』第53巻，2011年3月。
- 高橋由貴「組み換えられる〈われわれ〉—大江健三郎「戦いの今日」と冷戦構造下の日本」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第21号，2012年3月。
- 仁平政人「無言のまほりを廻る—川端康成「無言」論—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第33号，2009年10月。
- 仁平政人「川端康成「散りぬるを」論—「合作」としての「小説」—」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第19号，2010年3月。
- 仁平政人「川端康成「青い海黒い海」論—言葉の〈速度〉と〈遅れ〉—」，日本文芸研究会『文芸研究』第170集，2010年9月。
- 仁平政人「『猫道楽』—隠語の詩学、あるいは〈猫〉を飼わないと言う作法—」，『現代女性作家読本 長野まゆみ』，鼎書房，2010年10月。
- 仁平政人「「漫想」する言葉—尾崎翠における「映画」の翻訳—」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第20号，2011年3月。
- 仁平政人「『マリカの永い夜／バリ夢日記』—テキストの旅・〈夜〉の輝き—」，『現代女性作家読本 よしもとばなな』，鼎書房，2011年7月。
- 王嘉臨「志賀直哉『大津順吉』論—「自己語り」の叙述形式をめぐって—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第33号，2009年10月。
- 江明瑾「過剰化された人間性の物語—太宰治「裸川」論—」，東北大学文学会『文化』第75巻3・4号，2012年3月。
- 韓吉子「樋口一葉「われから」論—「鬱ぎ」込む妻たち—」，東北大学文学会『文化』第74巻第1・2号，2010年9月。
- 河内聡子「雑誌『家の光』の普及過程に見るメディアの地域展開」，日本文学協会『日本文学』第58巻第4号，2009年4月。

- 河内聡子「産業組合の拡充期における思想的潮流とその転換」，信州大学
人文学部大学院委員会『人文科学研究』第7号，2009年12月．
- 河内聡子「昭和前期農村におけるメディア・イベントー産業組合メディア
の公共性ー」，リテラシー史研究会『リテラシー史研究』第3号，2010
年1月．
- 河内聡子「『家の光』の誌面改良ー梅山一郎の編集態度を中心にー」，リ
テラシー史研究会『リテラシー史研究』第4号，2011年1月．
- 河内聡子「『家の光』の普及に関するー考察ー産青連と反産業組合運動ー」，
東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月．
- 河内聡子「昭和前期の農村地域における〈共同体〉の編成とその機能」，
社会システム研究会『社会システム研究』第22号，2011年3月．
- 河内聡子「制度とメディアー『家の光』創刊の経緯に見るー」，東北大学
国文学研究室『日本文芸論叢』第20号，2011年3月．
- 河内聡子「国定教科書取次販売所における取引の現場を辿るー長野県ー書
肆の事例を追って」，和田敦彦編『国定教科書はいかに売られたかー
近代出版流通の形成』，ひつじ書房，2011年3月．
- 河内聡子「創刊期『家の光』における課題としての〈農村〉」，東北大学
国文学研究室『日本文芸論叢』第21号，2012年3月．
- 河内聡子「昭和前期農村における活字メディアの展開と受容ー産業組合の
出版活動を中心にー」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第35号，
2012年3月．
- 河内聡子「大原幽学の発見ー「日本的産業組合」の創出と歴史叙述の転換
を巡ってー」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』36号，2013年3
月．
- 岸本洋輔「鎌倉本『保元物語』論ー〈類〉を指向する歴史叙述ー」，東北
大学文学会『文化』第75巻第1・2号，2011年9月．
- 岸本洋輔「流布本『承久記』における身体・生命・倫理ー〈小さな物語〉
の連続に着目してー」，軍記・語り物研究会『軍記と語り物』第48号，
2012年3月．
- 岸本洋輔「研究展望 平家物語（二〇一〇年一〇月～二〇一一年九月）」，
軍記・語り物研究会『軍記と語り物』第49号，2013年3月．
- 大木葉子「雑誌『乳樹（チチノキ）』とモダニズムー児童文学史上におけ

- るその可能性—（上）」，日本文芸研究会『文芸研究』第169集，2010年3月。
- 大木葉子「雑誌『乳樹（チチノキ）』とモダニズム—児童文学史上におけるその可能性—（下）」，日本文芸研究会『文芸研究』第170集，2010年9月。
- 大木葉子「鈴木三重吉「赤い鳥」の標榜語」，加藤理編『児童文化の原像と芸術教育』，港の人，2011年7月。
- 大木葉子「原抱一庵「少年小説 新年」論—その固有性の内実について—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』36号，2013年3月。
- 黒澤佑司「郷愁の射程—嵯峨の屋おむろ「初恋」論—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月。
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』の修辞学—Associationism（連合主義）を視座として—」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第34号，2011年1月。
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』と〈同感(sympathy)〉の原理（上）—「(F+f)」と「間隔論」を中心に」，東北大学国文学研究室『日本文芸論叢』第21号，2012年3月。
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』と〈同感(sympathy)〉の原理（下）—「趣味」の概念と「還元的感化」を中心に」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』第35号，2012年3月。
- 木戸浦豊和「Sympathyの文学論—夏目漱石『文学論』における「同感」と「同情」をめぐる」，日本近代文学学会『日本近代文学』第88集，2013年5月。
- 伊澤亮太「著書紹介 仁平政人『川端康成の方法—20世紀モダニズムと「日本」言説の構成—』」，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』36号，2013年3月。
- 笠間はるな「揺れ動く女夜叉の本性—樋口一葉「やみ夜」論」，日本文芸研究会『文芸研究』第174集，2012年9月。
- 笠間はるな「月が照らす「妙変」—樋口一葉「軒もる月」論」，東北大学文学研究科国文学研究室『日本文芸論叢』第22号，2013年3月。

(2) 口頭発表

久保堅一「〈源氏物語〉というカノンと古典教育の中で向き合うこと」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 3 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 14 日．

久保堅一「蜻蛉巻の薫」，古代文学研究会 2010 年度大会，伊勢かぐらばりゾート 千の杜，2010 年 8 月 10 日．

鈴木早苗「御法巻の紫の上」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 5 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 30 日．

鈴木早苗「御法巻の紫の上一葬送場面の情景描写に注目して一」，日本文芸研究会第 63 回研究発表大会，東北大学，2011 年 6 月 12 日．

高橋早苗「『白露』論一「思ひ知れ」歌の解釈を中心に一」，東北大学文芸談話会平成 23 年度第 3 回研究発表会，東北大学，2012 年 2 月 21 日．

高橋由貴「「見るまえに跳べ」から「狩猟で暮したわれらの先祖」へ一大江健三郎における深瀬基寛『オーデン詩集』の受容一」，日本比較文学会 2009 年度東北大会，弘前大学，2009 年 11 月 28 日．

高橋由貴「原爆教材としての原民喜「夏の花」」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 2 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 13 日．

高橋由貴「沈黙を囲む饒舌一大江健三郎「人間の羊」論一」，東北大学文芸談話会平成 22 年度第 1 回研究発表会，東北大学，2011 年 1 月 25 日．

高橋由貴「大江健三郎と原民喜一「夏の花」の評価をめぐって一」，第 24 回原爆文学研究会研究発表会，立教大学，2011 年 5 月 7 日．

高橋由貴「オーデンの詩を「核（コア）」とする小説一大江健三郎「狩猟で暮したわれらの先祖」論一」，日本文芸研究会・日本思想史研究会共催研究発表会，東北大学，2011 年 9 月 10 日．

高橋由貴「大江健三郎の核時代観一深瀬基寛訳のオーデン「支那のうへに夜が落ちる」の受容一」，東北大学文芸談話会平成 23 年度第 3 回研究発表会，東北大学，2012 年 2 月 21 日．

仁平政人「モダニズムと〈翻訳〉のエクルチュール一横光利一／生田長江の交差をめぐって一」，日本比較文学会東北支部第 7 回比較文学研究会，仙台市青年文化センター，2009 年 8 月 8 日．

仁平政人「「翻訳」の文芸学一尾崎翠テクストの分析を起点に一」，日本文芸研究会第 62 回研究発表大会，福島大学，2010 年 6 月 19 日．

仁平政人「稲垣足穂「一千一秒物語」をめぐる絵画／文学の交叉一言葉と
図像の翻訳（不）可能性一」，東北大学文芸談話会平成23年度第2回
研究発表会，東北大学，2011年9月6日．

仁平政人「「チェホフ」という地下室—尾崎翠「地下室アントンの一夜」
をめぐる一」，日本比較文学会東北支部第9回比較文学研究会，東
北大学，2011年7月30日．

飯田真弓「『萬葉集』卷六・一〇一七番歌 大伴坂上郎女歌論—「廬」「野
辺」に着目して一」，第32回萬葉語学文学研究会，奈良女子大学，2010
年9月25日．

韓吉子「樋口一葉「うつせみ」論—未定稿「うつせみ」を起点として一」，
日本文芸研究会第61回研究発表大会，東北大学，2009年6月14日．

韓吉子「樋口一葉「うつせみ」論—未定稿を起点として一」，韓国日本学
会2009傘下学会聯合学術大会，漢陽女子大学，2009年9月19日．

江明瑾「太宰治『惜別』論—〈共同体〉の問題をめぐる一」，東北大学
文芸談話会平成21年度第1回研究発表会，東北大学，2009年4月11
日．

大木葉子「文学と教育—「ごんぎつね」の場合一」，東北大学文芸談話会
平成21年度第2回研究発表会，東北大学，2010年3月13日．

大木葉子「創刊期『赤い鳥』の表紙絵」，東北大学文芸談話会平成23年度
第2回研究発表会，東北大学，2011年9月6日．

大木葉子「前期『赤い鳥』と関東大震災」，日本近代文学会東北支部大会，
秋田市カレッジプラザ，2011年12月24日．

岸本洋輔「軍記物語の諦念表現—三類本『保元物語』を中心に—」，日本
文芸研究会 第61回研究発表大会，東北大学，2009年6月14日．

岸本洋輔「『保元物語』の新たな組みなおし」，軍記・語り物研究会例会，
法政大学，2009年11月15日．

岸本洋輔「流布本『承久記』における身体・生命・倫理—〈小さな物語〉
の連続に着目して一」，軍記・語り物研究会2011年度大会，かながわ
女性センター，2011年9月1日．

河内聡子「雑誌『家の光』における〈農村〉の射程—誌面改良の動きを巡
って一」，日本文芸研究会平成22年度第2回研究発表会，東北大学，
2010年12月11日．

河内聡子「史料としての図像—雑誌『家の光』における女優表象を中心に—」，東北大学文芸談話会平成 23 年度第 2 回研究発表会，東北大学，2011 年 9 月 6 日。

河内聡子「手段としての文学—賀川豊彦における農民文学の実践—」，日本文芸研究会第 64 回研究発表大会，東北大学，2012 年 6 月 17 日。

河内聡子「雑誌連載小説の機構—賀川豊彦『乳と蜜の流るゝ郷』を端緒として」，日本近代文学会 2013 年度春季大会，法政大学，2013 年 5 月 29 日。

河内聡子「特集される〈伝説〉—雑誌『家の光』における伝承文学の収集を巡って—」，伝承文学研究会平成 25 年度大会，長野県立短期大学，2013 年 9 月 8 日。

黒澤佑司「〈文学〉の可能性／〈教材〉の政治性—中学 3 年生教材「故郷」「いちご同盟」をめぐって—」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 2 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 13 日。

黒澤佑司「「自伝」という方法—嵯峨の屋おむろ『無味気』をめぐって—」，日本文芸研究会第 62 回研究発表大会，福島大学，2010 年 6 月 20 日。

黒澤佑司「テキストと批評をめぐる動態—嵯峨の屋おむろ「くされたまご」を中心として—」，東北大学国文学会平成 22 年度研究発表大会，東北大学，2010 年 11 月 13 日。

中野渡信哉「高等学校教科用図書における『古事記』」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 3 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 14 日。

渡部南「高校教材としての『大鏡』」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 3 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 14 日。

蔡雅如「『六百番歌合』の四季歌における風景表現—「野」をめぐって—」，東北大学文芸談話会平成 21 年度第 4 回研究発表会，東北大学，2010 年 3 月 23 日。

島南風「身体への視座—『太平記』論—」，東北大学文芸談話会平成 22 年度第 2 回研究発表会，東北大学，2011 年 3 月 1 日。

大平千波弥「『平家物語』における行盛とその和歌」，東北大学文芸談話会平成 22 年度第 2 回研究発表会，東北大学，2011 年 3 月 1 日。

木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』と心理学—Associationism（連合主義）の問題を中心に」，日本比較文学会 2010 年度東北大会，岩手大学，2010

- 年 12 月 4 日.
- 木戸浦豊和「文学的内容の形式「(F+f)とは何か?—夏目漱石『文学論』の冒頭をめぐる」, 日本文芸研究会第 63 回研究発表大会, 東北大学, 2011 年 6 月 12 日.
- 木戸浦豊和「〈同感(sympathy)〉の文学論—夏目漱石『文学論』を中心に」, 日本比較文学会北海道支部・東北支部共催比較文学研究会, 北海学園大学, 2012 年 3 月 17 日.
- 木戸浦豊和「〈同情〉の批評論—大西祝と田岡嶺雲」, 日本文芸研究会平成 24 年度第 2 回研究発表会, 東北大学, 2012 年 12 月 8 日.
- 木戸浦豊和「情緒・同情・非人情—夏目漱石『文学論』から「草枕」へ—」, 東北大学文芸談話会平成 23 年度第 4 回研究発表会, 東北大学, 2012 年 3 月 12 日.
- 木戸浦豊和「二つの〈写生文〉—夏目漱石の〈同情〉概念を視座として」, 日本比較文学会北海道支部・東北支部共催第 2 回比較文学研究会, 仙台市青年文化センター, 2013 年 3 月 16 日
- 木戸浦豊和「夏目漱石『文学論』の位相—同時代における英語圏の文学理論・芸術論との比較・対照から」, 日本近代文学会国際研究集会, 日本大学, 2013 年 12 月 1 日.
- 高橋美希「朱雀院の共感と葛藤—女三宮降嫁を起点として—」, 東北大学文芸談話会平成 23 年度第 1 回研究発表会, 東北大学, 2011 年 7 月 19 日.
- 小野貴裕「薫の道心—宿木巻を起点にして—」, 東北大学国文学会平成 22 年度研究発表大会, 東北大学, 2010 年 11 月 13 日.
- 芋田由樹「川上弘美「蛇を踏む」論—結末部をめぐる—」, 東北大学国文学会平成 23 年度研究発表大会, 東北大学, 2011 年 11 月 12 日.
- 本多遥「小林秀雄における「伝統」意識—「実朝」論—」, 東北大学文芸談話会平成 23 年度第 5 回研究発表会, 東北大学, 2012 年 3 月 15 日.
- 本多遥「小林秀雄「私小説論」考」, 東北大学文芸談話会平成 24 年度第 2 回研究発表会, 東北大学, 2013 年 3 月 30 日.
- 本多遥「小林秀雄「私小説論」考—「リアリズム」と「文学的リアリティ」をめぐる—」, 日本比較文学会東北支部第 11 回比較文学研究会, 仙台ビジネスホテル, 2013 年 7 月 27 日.

添田千尋「隠岐本『新古今和歌集』論—後鳥羽院詠歌の削除をめぐって—」，
東北大学国文学会平成 23 年度研究発表大会，東北大学，2011 年 11 月
12 日．

伊澤亮太「『行人』論—〈構成の破綻〉をめぐって—」，東北大学国文学
会平成 23 年度研究発表大会，東北大学，2011 年 11 月 12 日．

伊澤亮太「『草枕』論—ジャンルを越えるテクスト—」，東北大学，日本
文芸研究会平成 25 年度第 1 回研究発表会、2013 年 9 月 7 日．

于楽「覚一本『平家物語』論—忠度・和歌・帰る場所—」，東北大学文芸
談話会平成 24 年度第 1 回研究発表会，東北大学，2012 年 4 月 10 日．

于楽「『平家物語』において乳母子が担うもの—その過剰性に注目して—」，
東北大学国文学会平成 24 年度研究発表大会，東北大学，2012 年 11 月
10 日．

笠間はるな「樋口一葉「やみ夜」論—「女主」としてのお蘭をめぐって—」，
東北大学国文学会平成 23 年度研究発表大会，東北大学，2011 年 11 月
12 日．

笠間はるな「樋口一葉「軒もる月」論—「夢路」を照らす「月」と身に添
う「影」への眼差し—」，日本近代文学会東北支部平成 24 年度夏季大
会，岩手県民会館，2012 年 7 月 7 日．

笠間はるな「樋口一葉「琴の音」論—「八面玲瓏」の月と『文学界』」，
日本近代文学会東北支部平成 25 年度夏期大会，2013 年 7 月 6 日，
福島大学．

3 大学院生・学部生等の受賞状況

関澤美育 東北大学研究教育振興財団「海外留学奨励賞」，2009 年 7 月 22
日．

4 日本学術振興会研究員採択状況

2011 年度，DC2，採用，1 名

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

なし．

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	2	6	8
10	2	3	5
11	0	1	1
12	1	3	4
13	2	3	5
計	7	16	23

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	5	1	6
10	3	1	4
11	2	0	2
12	1	1	2
13	0	2	2
計	11	5	16

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

王嘉臨	台湾淡江大学	専任講師	2010年度
三浦一朗	弘前学院大学	准教授	2011年度
久保堅一	仙台高等専門学校	専任講師	2011年度
仁平政人	弘前大学	専任講師	2011年度
高橋早苗	東北大学	助教	2011年度
高橋由貴	福島大学	准教授	2012年度
高橋早苗	新潟大学	准教授	2013年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 27名

8 客員研究員等の受け入れ状況

客員研究員

台湾 淡江大学 顧錦芬 講師 2010年7月4日～8月5日 宮澤
賢治童話の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]

大韓民国 祥明大学校 梁東国 教授 2013年4月1日～2014年2月
28日 茨木のり子の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]

中国 北京科学技術大学 李光華 副教授 2013年4月1日～2014年
3月31日 日本近代文芸における「家」 [受入教員 佐藤伸宏教
授]

東北大学大学院文学研究科リサーチフェロー

台湾 慈濟大学 高惠玲 講師 2010年7月8日～2010年8月5日
志賀直哉の研究 [受入教員 佐藤伸宏教授]

大韓民国 漢陽女子大学 李英敬 教授 2010年7月20日～2010年8
月7日 中世紀行文芸の研究 [受入教員 佐倉由泰教授]

大韓民国 漢陽女子大学 李英敬 教授 2012年8月2日～2012年8月
13日 中世紀行文芸の研究 [受入教員 佐倉由泰教授]

9 外国人研究者の受け入れ状況

上記の客員研究員等のほかは なし。

10 刊行物

『日本文芸論叢』（東北大学国文学会・1982年3月より年刊を原則とし
て刊行）

『日本文芸論稿』（東北大学文芸談話会・1867年7月より年刊を原則と
して刊行）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第61回総会・研究発表大会 開催事務局（6月9・10
日）

2010年度

日本文芸研究会事務局

2011 年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第 63 回総会・研究発表大会 開催事務局 (6 月 11・12 日)

2012 年度

日本文芸研究会事務局

日本文芸研究会第 64 回総会・研究発表大会 開催事務局 (6 月 16・17 日)

2013 年度

日本文芸研究会事務局

中古文学会秋季大会 開催事務局 (10 月 26・27 日)

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009 年度

東北大学文芸談話会平成 21 年度第 1 回研究発表会 2009 年 4 月 11 日

東北大学国文学会平成 21 年度研究発表大会 2009 年 11 月 7 日

東北大学文芸談話会平成 21 年度第 2 回研究発表会 2010 年 3 月 13 日

東北大学文芸談話会平成 21 年度第 3 回研究発表会 2010 年 3 月 14 日

東北大学文芸談話会平成 21 年度第 4 回研究発表会 2010 年 3 月 23 日

東北大学文芸談話会平成 21 年度第 5 回研究発表会 2010 年 3 月 30 日

2010 年度

東北大学国文学会平成 22 年度研究発表大会 2010 年 11 月 13 日

東北大学文芸談話会平成 22 年度第 1 回研究発表会 2011 年 1 月 25 日

東北大学文芸談話会平成 22 年度第 2 回研究発表会 2011 年 3 月 1 日

2011 年度

東北大学文芸談話会平成 23 年度第 1 回研究発表会 2011 年 7 月 19 日

東北大学文芸談話会平成 23 年度第 2 回研究発表会 2011 年 9 月 6 日

東北大学国文学会平成 23 年度研究発表大会 2011 年 11 月 12 日

東北大学文芸談話会平成 23 年度第 3 回研究発表会 2012 年 2 月 21 日

東北大学文芸談話会平成 23 年度第 4 回研究発表会 2012 年 3 月 12 日

東北大学文芸談話会平成 23 年度第 5 回研究発表会 2012 年 3 月 15 日

2012 年度

東北大学文芸談話会平成 24 年度第 1 回研究発表会 2012 年 4 月 10 日

東北大学国文学会平成 24 年度研究発表大会 2012 年 11 月 10 日

東北大学文芸談話会平成 24 年度第 2 回研究発表会 2013 年 3 月 30 日

2013 年度

東北大学国文学会平成 25 年度研究発表大会 2013 年 11 月 16 日

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

国文学専攻分野では、作品の表現を丁寧に読み解くことを一貫して重んじ、偏りのない知識と読解力の習得を促しながら、学生ひとりひとりの関心を尊重して自己実現の手助けをすることを目標にして、毎年、多くの学生の教育に当たってきたが、過去 5 年間ににおいても、十分な実績・成果を挙げてきたと評価できる。全国的に就職状況が未だよいとは言えない状況にあっても、多くの前途有為な卒業生・修了生が希望の進路で活躍することがかなうような教育活動が実現できたと思う。多くの学生が本専攻分野で学ぶことを希望するが、そうした学生の意欲や関心に十分応えられる教育がなされていると考えていいだろう。毎年、約 70 名の学生が在籍し、2009 年度～2012 年度の 4 年間に、59 名（平均 15 名）が学部を卒業し、21 名（平均 5 名）が博士課程前期を修了し、博士課程後期の学生についても、ここ 5 年間で 10 名が修了もしくは満期退学した。なかでも、ここ 5 年の間に、県立高校の教員を中心に、中学校・高等学校の教員として、27 名の卒業生・修了生・博士課程後期退学者が採用されていること（常勤講師・非常勤講師を加えればその数はさらに増える）は、教員になることが難関となっている昨今の状況を考え合わせるに、特筆すべき実績と言えよう。留学生に対しても、毎年 5～10 名程の学生の教育に当たって、多大な成果を挙げており、国際社会への貢献度も少なくない。また、本専攻分野は、高度職業人の養成という社会的要請にも十分に応えており、現在、博士前期・後期課程に 2 名の社会人学生が在籍し、充実した修学・研究を重ねている。

本専攻分野の組織としての研究活動も十分評価できるものと考えている。確かに、全国的な厳しい状況を反映して、大学・短期大学・工業高等専門学校の常勤の職に就くのがきわめて難しい現状にあるが、そうした中でも、今年になって、改善の兆しが見え始めている。しかも、研究活動自体は一向に衰えることはなく、きわめて活発に進められている。特に、大学院の学生の論文発表の充実ぶりは顕著で、その全体の数はもとより、審査制学術誌に掲載されるケー

スも増加する傾向にある。大学院の学生の研究発表も質・量ともに年々その充実度を増している。日々の教育・研究の場において、テキストと正面から向き合い、細部をたいせつにして表現を丹念に読み解くことを一貫して重んじてきたことがこうした旺盛な研究活動を支えているものと理解される。その成果が高い評価を受け、この5年間に、公募により弘前学院大学・仙台高等専門学校・弘前大学・福島大学・新潟大学などに採用されていることは特筆に値しよう。

また、本専攻分野は、刊行物の刊行や研究会の開催等を活発に行うことはもとより、学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催にも進んでかかり、客員研究員・外国人研究者の受け入れにも積極的に対応しており、国内外の学術交流ネットワークの重要な要としての役割を担っている。そして、何よりも、博士学位の審査にも厳正に当たり、すぐれた実績・成果を示した研究者に正当に学位が授与されるよう真摯に努力を重ねている。

以上のように、国文学専攻分野の研究・教育活動は高く評価できるが、2006年度に実施された外部評価（評価者：今西祐一郎 九州大学大学院人文科学研究教授）も、その客観的な裏付け・根拠となる。当該外部評価においては、作品を正確に、「文芸」として味読・読解するという文学研究の基本が、研究・教育の場で着実に実践され、それが伝統として脈々と受け継がれていることをはじめ、本分野の教員・学生の研究に対し、①先見性・独創性、②実証性・堅実性、③継続性・持続性、④体系性、⑤学界・社会への影響・貢献、⑥学会活動への貢献のいずれについても、たいへん高い評価がなされている。

ただし、教育・研究には、これでよいと安心できるような到達点はない。学生が、進路のこと、修学のことなどで、とまどい悩むことも少なくない。よりよい教育・研究環境の創出とさらなる成果の充実を期して不断に工夫をこらし、努力を重ねる必要がある。教員全員が、学生ひとりひとりのよりよい自己実現のためにたゆまず努めることを強く心に念じている。

Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

佐藤伸宏 「1930年代フランスに於ける二冊の日本詩翻訳アンソロジー」,
『越境する言の葉』, 日本比較文学会, 彩流社, pp.249-259, 2011年6月.

- 佐藤伸宏 「翻訳された「サーカス」—オノマトペの翻訳（不）可能性をめぐって—」, 『中原中也研究』第 16 号, 中原中也の会, pp.123-133, 2011 年 9 月.
- 佐倉由泰 「奥羽の豊かさを語るということ —陸奥五十四郡言説を起点として—」, 『説話文学研究』第 44 号, 説話文学会, pp.120-129, 2009 年 7 月.
- 佐倉由泰 「「友」なき戦場—『平家物語』の合戦記述—」, 『武蔵野文学』第 58 集, 武蔵野書院, pp.8-14, 2010 年 12 月.
- 佐倉由泰 「『太平記』と「気」」, 佐伯真一編『中世文学と隣接諸学 4 中世の軍記物語と歴史叙述』, 竹林舎, pp.211-237, 2011 年 4 月.
- 佐倉由泰 「『平家物語』における祝祭的表象」, 鈴木則郎編『平家物語〈伝統〉の受容と再創造』, おうふう, pp.65-104, 2011 年 5 月.
- 佐倉由泰 「リテラシーの動態を捉える文学史は可能か」, 『文学・語学』第 200 号, pp.54-69, 2011 年 7 月.
- 佐倉由泰 「軍記物語の表現の古態を考えるとということ」, 千明守編『平家物語の多角的研究』, ひつじ書房, pp.3-21, 2011 年 11 月.
- 佐倉由泰 「『天正記』の機構と十六世紀末の文化・社会の動態」, 説話文学会編『説話から世界をどう解き明かせるのか 説話文学会設立 50 周年記念シンポジウム [日本・韓国] の記録』, 笠間書院, pp.282-307, 2013 年 6 月.
- 横溝博 「『弄花抄』の注釈者たち—肖柏・実隆による後注をめぐって—」, 『平安文学の古注釈と受容』第二集, 武蔵野書院, pp.143-160, 2009 年 9 月.
- 横溝博 「「物語合」虚構論—十九番目の物語—」, 横井孝・久下裕利編『平安後期物語の新研究』, 新典社, pp.348-369, 2009 年 10 月.
- 横溝博 「『和歌知頭集』と源経信—仮托者の風景—」, 前田雅之編『（中世文学と隣接諸学 5）中世の学芸と古典注釈』, 竹林舎, pp.402-419, 2011 年 9 月.
- 横溝博 「按察家の人々—『海人の刈藻』を中心として—」, 久下裕利編『源氏以後を考える—継承の構図』, 武蔵野書院, pp.171-202, 2012 年 5 月.
- 横溝博 「院政期物語としての『海人の刈藻』—『栄花物語』もしくは藤

- 原頼通の時代からの継承——」，中野幸一編『平安文学の交響——享受・撰取・翻訳』，勉誠出版，pp.232-252，2012年5月。
- 横溝博 「『源氏物語』女三宮の裳着と機能——姫君たちの裳着の場面に着目して——」，小嶋菜温子編『源氏物語と儀礼』，武蔵野書院，pp.437-457，2012年12月。
- 横溝博 「国宝『源氏物語絵巻』にあらわれる〈男〉と〈女〉」，東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『男と女の文化史(人文社会科学講演シリーズVI)』，東北大学出版会，pp.3-43，2013年3月。
- 横溝博 「『いはでしのぶ』典拠攷——韻文編——（巻一）」，『東北大学文学研究科研究年報』第62号，pp.238-264，2013年3月。
- 三浦一朗 「信義の行方—「菊花の約」論—」，『文化』第73巻3・4号，東北大学文学会，pp.19-37，2010年3月。
- 三浦一朗 「歴史との対話—「白峯」論—」，『日本文芸論叢』第19号，東北大学国文学研究室，pp.1-12，2010年3月。
- 高橋早苗 「『白露』論—男君の「心」に着目して—」，『日本文芸論叢』第21号，東北大学国文学研究室，pp.1-12，2012年3月。
- 高橋早苗 「『白露』論—「露のあはれ」歌の解釈をめぐる—」，『日本文芸論稿』第35号，東北大学文芸談話会『日本文芸論稿』編集委員会，pp.29~40，2012年3月。
- 高橋早苗・久保堅一 「『源氏物語』『紫式部日記』『紫式部集』と『白氏文集』研究文献目録」，仁平道明編『源氏物語と白氏文集』，新典社，pp.311~329，2012年5月。
- 高橋早苗 「「母」の出家の物語—『夜の寝覚』論—」，『国語と国文学』第89巻9号，東京大学国語国文学会，pp.18~32，2012年9月。

1-2 著書・編著

- 佐藤伸宏『詩の在りか—口語自由詩をめぐる問い』，笠間書院，261p，2011年3月。
- 佐藤伸宏『東北近代文学事典』（共編著），勉誠出版，775p，2013年6月。
- 佐倉由泰『軍記物語の機構』，汲古書院，539p，2011年2月。
- 佐倉由泰『『大塔物語』をめぐる知の系脈』，日本学術振興会2009~2012年度科学研究費補助金基盤研究（C）「古代から中世に至る真名表記

テキストに関する表現と知の系脈についての研究」（研究代表者 佐倉由泰）報告書，204p，2013年3月
横溝博『平安文学の古注釈と受容 第二集』（陣野英則・新美哲彦・横溝博編著）（共編），武蔵野書院，225p，2009年9月。

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 書評

佐藤伸宏 「山本康治著『明治詩の成立と展開』」，『日本近代文学』第87集、日本近代文学会，2012年10月。

佐藤伸宏 「秋草俊一郎著『ナボコフ 訳すのは「私」 自己翻訳がひらくテキスト』」，『比較文学』第55巻，日本比較文学会，2013年3月。

佐藤伸宏 「相沢直樹著『甦る「ゴンドラの唄」』」，『山形新聞』，2013年3月3日。

佐倉由泰 「錦仁著『なぜ和歌を詠むのか 菅江真澄の旅と地誌』」，『説話文学研究』第47号，説話文学会，pp.259-262，2012年7月。

佐倉由泰 「松尾葦江・小口雅史他解題『内閣文庫所蔵史籍叢刊 古代中世篇 第八巻 源平鬪諍録 将門記抜書 陸奥話記』」，『弘前大学国史研究』第134号，弘前大学国史研究会，pp.39-45，2013年3月。

横溝博 「田坂憲二著『源氏物語享受史論考』」，『日本文学』第59巻第3号，日本文学協会，pp.76-77，2010年3月。

横溝博 「熊谷義隆著『源氏物語二つのゆかり—継承の主題と変化—』」，『文藝研究』第170集，日本文芸研究会，pp.70-71，2010年9月。

横溝博 「勝亦志織著『物語の〈皇女〉—もうひとつの王朝物語史—』」，『平安朝文学研究』20号，pp.96-99，2011年3月。

(2) 解説

佐倉由泰 「藤原清衡と文学」，三浦秀一編『人文社会科学講演シリーズIV 東北人の自画像』，東北大学出版会，pp.41-85，2010年2月。

佐倉由泰 「日本の文化を支えた真名の世界」，東北大学広報誌『まなびの杜』No.57（2011秋号），東北大学，表紙（表・裏），2011年9月。

佐倉由泰 「「縁」—御伽草子『ものくさ太郎』に学ぶ—」（座小田豊・尾崎彰宏編『今を生きる—東日本大震災から明日へ！ 復興と再生への

- 提言— 1 人間として』東北大学出版会，pp.45-62，2012年3月。
- 横溝博 「平成十九年国語国文学界の動向 中古散文 源氏物語一千年紀を前に」，『文学・語学』第194号，全国大学国語国文学会，pp.27-30，2009年7月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究の展望—物語受容の観点から—」，『鳳翔学叢』第8輯，平等院，pp.53-118，2012年3月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究（一）—注釈編—」，『鳳翔学叢』第8輯，平等院，pp.53-118，2012年3月。
- 横溝博 「『四条宮下野集』研究（二）—注釈編—」，『鳳翔学叢』第9輯，平等院，2013年3月。

（3）辞典項目等

- 佐藤伸宏 「石井昌光」「庄司直人」「白鳥省吾」「杉捷夫」「土居光知」「土井晚翠」「富永太郎」「吉野臥城」「近代作家と東北〈宮城県〉」「教育機関と文学〈宮城県〉」，『東北近代文学事典』，勉誠出版，pp.33, 282, 285-286, 294, 364, 364-365, 374-375, 544-545, 579-583, 602-604，2013年6月。
- 佐倉由泰 「安藤右宗」「今井兼平」「越後中太家光」「落合兼行」「平忠盛」「平為員」「平将門」「平正盛」「巴」「中原兼遠」「中原基兼」「樋口兼光」「便女」「藤原秀衡」「源行家」「将門記」「陸奥話記」，『平家物語大事典』，東京書籍，pp.17, 34-35, 51, 68, 242-243, 243, 257, 257-258, 306-307, 309, 309-310, 335-336, 340-341, 372-373, 416-417, 590, 670-671，2010年11月。
- 横溝博 「『源氏物語』人物別和歌一覧」（馬場淳子・横溝博共編），小嶋菜温子他編『源氏物語の和歌と表現』，翰林書房，pp.435-456，2009年5月。
- 横溝博 「後期物語の特質」，榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』，ミネルヴァ書房，pp.115，2010年5月。
- 横溝博 「説話の種々相」，榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』，ミネルヴァ書房，pp.129，2010年5月。
- 横溝博 「中世〔練習問題、解説・解答〕の一部」，『日本文学検定公式問

題集〔古典・近現代〕2級〕，新典社，pp.158-159, 179-180, 197-198, 2011年7月。

1-4 口頭発表

(1) 国際学会・国際シンポジウム

佐藤伸宏「日本研究の方法：一国研究をこえて」，単独，第2回東アジア日本研究フォーラム，国際交流基金，松島センチュリーホテル／松島市，2011年12月9日。

佐倉由泰「日本古典文学を読み、考えるということ」，単独，輔仁大学日本語文学科教学工作坊「台湾で日本古典文学を学ぶということ」講師（メインスピーカー），輔仁大学／台湾新莊市，2009年5月2日。

佐倉由泰「十五、十六世紀の日本の文化と物語」，単独，立教大学SFR国際会議「二重の異文化としての中世 未来の起点としての過去への新たな視点」，立教大学，立教大学／東京都，2013年6月22日。

横溝博「牢屋奉行の源氏学—『窺原抄』の成立について—」，単独，EAJS(European Association for Japanese Studies)国際会議，EAJS，タリン大学／エストニアタリン，2011年8月。

(2) 国内学会

佐藤伸宏「外国語に訳された宮澤賢治」，単独，日本比較文学会第71回全国大会ワークショップ「外国に《愛》された日本文学」，日本比較文学会，大阪大学／大阪，2009年6月20日。

佐藤伸宏「オノマトペの翻訳（不）可能性—中原中也フランス語訳詩集NAKAHARA Chuya, *Poèmes* をめぐって」，単独，比較文学研究会，日本比較文学会東北支部，仙台市青年文化センター／仙台市，2010年7月31日。

佐藤伸宏「〈協訳〉のテキスト—Kuni Matsuo et Steinilber-Oberlin, *Anthologie des Poètes japonais contemporains* をめぐって」，単独，2012年度日本比較文学会東北大会，日本比較文学会東北支部，山形テルサ／山形市，2012年11月17日。

佐倉由泰「『太平記』と「気（機）」」，単独，軍記・語り物研究会2010年度大会，軍記・語り物研究会，大学コンソーシアムあきた カレッジ

プラザ／秋田市，2010年8月30日．

佐倉由泰 「蝦夷研究会 50 回記念公開シンポジウム 蝦夷から平泉藤原氏へ—蝦夷、安倍・清原・藤原氏」のコメントーター・パネリスト，蝦夷研究会，岩手大学／盛岡市，2010年9月18日．

佐倉由泰 「武士の滅罪の表象を考える—奥州藤原氏と源氏の人々をめぐる表現を中心に—」，単独，第 62 回美学会大会 シンポジウム「浄罪の場所」表象の東西—この世・あの世または第三の場所—」，美学会，東北大学／仙台市，2011年10月16日．

佐倉由泰 「柳田國男と軍記物語」，単独，東北文化研究室公開講演会 柳田國男五十年祭記念シンポジウム「柳田國男と東北大学」，東北大学大学院文学研究科，東北大学／仙台市，2011年11月19日・20日．

佐倉由泰 「『天正記』の機構と十六世紀末の文化・社会の動態」，単独，2012 年度説話文学学会大会（学会創立五十周年記念大会）シンポジウム第三セッション「説話と地域・歴史叙述—転換期の言説と社会—」，説話文学学会，立教大学／東京都，2012年6月24日．

横溝博 「按察家の人びと—『海人の刈藻』論を中心に—」，日本文芸研究会平成 22 年度第 1 回研究発表会，日本文芸研究会，東北大学／仙台市，2010年9月11日．

高橋早苗 「『白露』論—「露のあはれ」歌の解釈をめぐって—」，東北大学文芸談話会平成 23 年度第 3 回研究発表会，東北大学文芸談話会，東北大学／仙台市，2012年2月20日．

高橋早苗 「「もの思ひ」「添ふ」身—『源氏物語』の人々—」，日本文芸研究会平成 24 年度第 1 回研究発表会，日本文芸研究会，東北大学／仙台市，2012年9月8日．

2 教員の受賞歴（2009～2013 年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2009～2013 年度）

（1）科学研究費補助金

2009 年度 課題番号：20520153 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」

900,000 円（1 年間総額）

2009 年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 1,040,000 円（1 年間総額）

2009 年度 課題番号：20720054 若手研究（B）研究代表者：三浦一郎「読本を視座とした近世中期歴史意識の研究」 780,000 円（1 年間総額）

2010 年度 課題番号：20520153 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」 600,000 円（1 年間総額）

2010 年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 650,000 円（1 年間総額）

2010 年度 課題番号：225042 研究成果公開促進費 学術図書 代表者：佐倉由泰『軍記物語の機構』（出版社：汲古書院，2011 年 2 月 28 日発行） 1,700,000 円（総額）

2011 年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 650,000 円（1 年間総額）

2011 年度 課題番号：23720099 若手研究（B）研究代表者：横溝博「『海人の刈藻』を中心とする院政期物語文学研究の開拓」 1,500,000 円（1 年間総額）

2012 年度 課題番号：24520381 基盤研究（C）研究代表者：佐藤伸宏「日本近代詩の外国語翻訳に関する総合的研究」 910,000 円（1 年間総額）

2012 年度 課題番号：21520176 基盤研究（C）研究代表者：佐倉由泰「古代から中世に至る真名表記テキストに関する表現と知の系脈についての研究」 1,170,000 円（1 年間総額）

2012 年度 課題番号：24520004 基盤研究（C）研究代表者：戸島貴代志「対話の時間性—機—の諸相について—」 1,560,000 円（1 年間総額）
の研究分担者：佐倉由泰

2012 年度 課題番号：23720099 若手研究（B）研究代表者：横溝博「『海人の刈藻』を中心とする院政期物語文学研究の開拓」 900,000 円（1 年間総額）

2013 年度 課題番号：24520381 基盤研究 (C) 研究代表者：佐藤伸宏「日本近代詩の外国語翻訳に関する総合的研究」 520,000 円 (1 年間総額)

2013 年度 課題番号：25580052 挑戦的萌芽研究 研究代表者：佐倉由泰「都鄙観念から考える日本文学史、日本文化史の研究」 910,000 円 (1 年間総額)

2013 年度 課題番号：24520004 基盤研究 (C) 研究代表者：戸島貴代志「対話の時間性—機—の諸相について—」 1,820,000 円 (1 年間総額)
の研究分担者：佐倉由泰

2013 年度 課題番号：23720099 若手研究 (B) 研究代表者：横溝博「『海人の刈藻』を中心とする院政期物語文学研究の開拓」 900,000 円 (1 年間総額)

(2) その他

なし

V 教員による社会貢献 (2009～2013 年度)

(1) 政府・地方公共団体の委員等

佐藤伸宏 教授

仙台文学館運営協議会委員 2004 年 4 月から、現在に至る。

仙台文学館運営協議会会長 2008 年 4 月から、現在に至る。

佐倉由泰 教授

国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2003 年 4 月～2007 年 3 月、
2008 年 4 月から、現在に至る。

公益財団法人仙台市市民文化事業団理事 2012 年 4 月～現在に至る。

国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍のデータベースの構築計画」連携拠点委員会委員 2013 年 4 月から、現在に至る。

横溝 博 准教授

国文学研究資料館国文学共同研究員 2005 年 4 月～2010 年 3 月

国文学研究資料館国文学文献資料調査員 2010 年 4 月～現在に至る。

大学入試センター教科科目第一委員会委員 2013 年 4 月～現在に至る。

(2) 講座・講演等

佐藤伸宏 教授

東北大学文学部オープンキャンパス公開講座 講師，「詩が生まれるところ」，東北大学，2010年7月28日。

佐倉由泰 教授

科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：千明守「平家物語の初期形態に関する多角的研究—屋代本を拠点として—」第四回共同研究会講師，「『平治物語』を考える—表現の古態なき「四部合戦状」として—」，國學院大學，2009年4月12日。

宮城県宮城野高等学校特別講座「学問の世界」講師，「文学の世界」，宮城県宮城野高等学校，2009年5月23日。

仙台文学館ゼミナール2009講師，「『平家物語』を読む」，仙台文学館，2009年9月5日・9月19日・9月26日・10月24日・10月31日。

藤女子大学日本語・日本文学科特別公開講演会 講師，「『平家物語』の表現世界の機構を問う—源行家の表象に着目して—」，藤女子大学，2010年9月10日。

仙台文学館ゼミナール2010講師，「『平家物語』を読む」，仙台文学館，2010年9月14日・9月28日・10月12日・10月26日・11月9日。

東北大学市民オープンキャンパス紅葉の賀 公開講演会 講師，「古典文学に見る、萩の名所 宮城野の成り立ち」，東北大学，2010年11月3日。

仙南高校サマーカレッジ 講師，「日本の古典文学について考える —文学表現を発見的に読むために—」，宮城県白石高等学校，2011年7月19日。

第4期齋理蔵の講座「〈男〉と〈女〉」講師，「文学表現における〈男〉と〈女〉—真名と仮名をめぐる—」，宮城県丸森町丸森まちづくりセンター，2011年8月6日。

科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：清水由美子「軍記文学における〈中央〉と〈地方〉に関する多角的研究」研究会 講師，「軍記物語と東海道—鎌倉という基点に着目して—」，学士会館，2011年9月11日。

仙台文学館ゼミナール 2011 講師, 「『平家物語』を読む」, 仙台市青年文化センター, 2010 年 9 月 13 日・9 月 27 日・10 月 4 日・10 月 18 日・10 月 25 日.

仙台文学館ゼミナール 2012 講師, 「藤原清衡と文学」, 仙台文学館, 2012 年 9 月 4 日・9 月 25 日・10 月 2 日・10 月 16 日・10 月 30 日.
宮城県高等学校国語科研修会講師, 「古典文学読解の視点」, 宮城県教育研修センター, 2012 年 9 月 11 日.

仙台文学館ゼミナール 2013 講師, 「『義経記』の世界」, 仙台文学館, 2013 年 9 月 3 日・9 月 10 日・10 月 1 日・10 月 15 日・10 月 29 日.

横溝博 准教授

宮城県仙台第二高等学校「一日大学」講師, 「『源氏物語』とは何か?」, 宮城県仙台第二高等学校, 2010 年 12 月 2 日.

第 10 期有備館講座「〈男〉と〈女〉」〔東北大学大学院文学研究科市民のための公開講座第 10 期〕講師, 「平安文学の〈男〉と〈女〉」, 大崎市岩出山公民館 (スコーレハウス), 2011 年 7 月 16 日.

東北大学文学部オープンキャンパス公開講義 講師, 「貸す・借りる・写す—平安文学の伝わりかた」, 東北大学川内北キャンパス, 2011 年 7 月 28 日.

宮城県吟道連盟吟道講座 講師, 「和歌史 1300 年—万葉から現代まで—」, 仙台メディアテーク, 2012 年 6 月 22 日.

黒陵出前講座講師, 「文献学から文芸学へ—『更級日記』を例として—」, 黒沢尻北高等学校, 2012 年 10 月 31 日.

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2009~2013 年度)

佐藤伸宏 教授

日本文芸研究会 委員 1985 年 6 月から, 現在に至る。

日本比較文学会 東北・北海道支部役員 1992 年 12 月から, 現在に至る。

日本文芸研究会 岡崎義恵学術研究奨励賞選考委員 2004 年 6 月~2010 年 6 月。

日本比較文学会 全国理事 2005 年 6 月から, 現在に至る。

日本比較文学会 学会賞選考委員会委員長 2011 年 6 月~2012 年 6 月。

日本比較文学会 学会賞選考委員会委員 2011年6月～2013年6月。

日本近代文学会 学会誌編集委員 2007年4月～2009年3月。

日本近代文学会 評議員 2008年4月から、現在に至る。

日本比較文学会 東北支部支部長 2008年10月～2013年6月。

佐倉由泰 教授

日本文芸研究会 委員 2003年6月から、現在に至る。

日本文学協会 委員 2003年12月～2007年11月、2008年12月から、
現在に至る。

日本文芸研究会 岡崎義恵学術研究奨励賞選考委員 2010年6月から、
現在に至る。

横溝博 准教授

日本文芸研究会 委員 2010年6月から、現在に至る。

中古文学会 常任委員 2013年6月から、現在に至る。

Ⅶ 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2013年度)

1 大学院授業担当

佐藤伸宏 教授

1 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

2 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

1 学期 日本文芸形成論研究演習 1910年代の文学

2 学期 日本文芸形成論研究演習 1910年代の文学

1 学期 日本文芸形成論研究演習 文学の〈領域〉をめぐる諸問題

2 学期 日本文芸形成論研究演習 文学の〈領域〉をめぐる諸問題

佐倉由泰 教授

1 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

2 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

1 学期 日本文芸形成論研究演習 源義経と曾我兄弟をめぐる物語の
形成

2 学期 日本文芸形成論研究演習 源義経と曾我兄弟をめぐる物語の
形成

横溝博 准教授

- 1 学期 国文学特論 『源氏物語』の研究
- 2 学期 国文学特論 『源氏物語』の研究
- 1 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法
- 2 学期 国文学研究演習 日本文芸の考究とその論述の方法

2 学部授業担当

佐藤伸宏 教授

- 1 学期 国文学概論 日本近代文芸の諸問題
- 2 学期 国文学基礎講読 昭和の小説を読む
- 1 学期 国文学演習 日露戦後文学の研究
- 2 学期 国文学演習 日露戦後文学の研究

佐倉由泰 教授

- 2 学期 国文学概論 日本古典文芸の世界
- 1 学期 国文学基礎講読 『徒然草』を読む
- 1 学期 日本文芸形成論各論 真名表記テキストの研究
- 2 学期 日本文芸形成論各論 真名表記テキストの研究
- 1 学期 国文学演習 源義経と曾我兄弟をめぐる物語
- 2 学期 国文学演習 源義経と曾我兄弟をめぐる物語

横溝博 准教授

- 1 学期 国文学各論 『源氏物語』の展開と享受
- 2 学期 国文学各論 『枕草子』の展開と享受
- 1 学期 国文学演習 『源氏物語』の研究—玉鬘十帖—
- 2 学期 国文学演習 『源氏物語』の研究—玉鬘十帖—
- 〔1 回担当〕 1 学期 人文社会総論 人文社会科学の世界

3 共通科目・全学科目授業担当

佐倉由泰 教授

- 〔1 回担当〕 2 学期 『レポート力』アップのための情報探索入門

(2) 他大学への出講 (2009~2013 年度)

佐藤伸宏 教授

宮城学院女子大学学芸学部 2006 年度~2013 年度

都留文科大学 2011 年度

佐倉由泰 教授

宮城教育大学 2005 年度～2008 年度・2010 年度～2013 年度

台湾・輔仁大学大学院 2009 年度

宮城学院女子大学学芸学部 2008 年度～2013 年度

放送大学宮城学習センター 2010 年度

藤女子大学 2010 年度

横溝博 准教授

放送大学宮城学習センター 2013 年度